

//REPORT//

令和4年度ユネスコスクールオンライン意見交換会

12/19 開催

第4回「地域と共に生きる ～ESDの学びから～」



ユネスコスクール事務局では、令和2(2020)年度より、ユネスコスクールオンライン意見交換会を1～2か月に1回のペースで実施しています。今年度第4回目は「地域と共に生きる ～ESDの学びから～」と題して、16名の参加者と対話の場をもちました。

■プログラム

開催日時:2022年12月19日(月) 16:00～17:00

| 時間 | 内容 |
|-------|--|
| 16:00 | オープニング 趣旨説明 ACCU教育協力部 部長 大安 喜一 |
| 16:05 | 事例紹介 RCE大牟田 ユースチーム |
| 16:25 | グループディスカッション 事例紹介を聞き感じたこと、各校の取り組みをお互いに共有します。 |
| 16:45 | 振り返り グループ毎に、ディスカッションで話したことを発表します。 (良かった点、学んだこと、今後活かしたいこと、改善点、メリット・デメリット等) |
| 17:00 | クロージング |

■ 事例紹介

RCE 大牟田 ユースチームより2名のご登壇者様をお迎えし、ご発表いただきました。

以下、概要です。

本日は、①大牟田のESDとこれまでの取組 ②「地域と共に」「大牟田の未来を創る」～ユース活動を通して～ ③やっと決まったチーム名という3点についてお話しします。

はじめに私たちが大牟田の小・中学校で学んだESDについてお話しします。大牟田は平成9年の炭鉱の閉鎖を境に、急激な人口減少が起きました。そこで、郷土・大牟田を愛し、誇りを持ち、大牟田

の未来をつなぐ子供たちを育てることに、大牟田の街をあげて取組を始めたそうです。大牟田は九州のちょうど中心にあり、西は有明海、東は自然豊かな山々に囲まれています。2015年7月に、明治日本産業革命遺産の1つとして、世界文化遺産に登録された宮原坑跡があります。これらの大牟田の宝に関わり、つながって、私たちは小・中学校の9年間、ESDの取組を通して学んできました。各学校の主な取組について紹介します。環境教育から世界遺産学習といった、多岐にわたる分野で取組を行いました。特に私たちの住む宮原坑区は、高齢化率が市内でも最も高く、認知症への取組をいち早く始めた地域です。私たちも小・中学校で実際に取り組んできました。取組は地域の方々に協力していただき、高齢者の方々に訪問してお話をしたり、手作りのプレゼントを渡し交流したりするというものです。この取組を通して、地域の方々とつながり、互いを見守る良い関係をつくることができました。また、世界遺産・宮原坑を拠点に、小学校では「子どもボランティアガイド」を実施したり、幼稚園・小学校・中学校・高校と地域の方々と共同チームを結成し、「フラワーチェーンプロジェクト」を実施したりしています。これは「花で宮原坑を囲もう」というプロジェクトです。「子どもボランティアガイド」は約9年間の歴史を持つ一大プロジェクトです。このように、持続可能な社会をつくるために、自分たちはどのようなことをしたら良いかを自然と考える学びを実践してきました。卒業後も地域の方々とつながっているということを感じるようになりました。

「大牟田が大好き」という思いを何かの行動に落とし込みたい、地域の方々に恩返しをしたいという、共通の思いを抱く仲間とともに、チームを結成し、大牟田を明るく元気な街にしたいと考えるようになりました。そこで、大牟田市の小・中学校で毎年1月に開催される子どもサミットを通じて、RCEユースチームのキックオフ宣言を行いました。私たちのチームの取組を紹介します。はじめに、農業後継者不足問題の解決にむけて活動を行っている方と取り組んだ例についてお話しします。実際に農業に参加する中で、「農業は楽しい」というイメージを持つようになりました。また10月には、地域の祭りで、高齢者の多い役員さんやスタッフの方々に代わり、炊事、食事や出し物の大道具の運搬など、力仕事を引き受けました。今でも会うたびに、温かい労いの言葉を下さり、このような伝統的な祭りは、若い力でもっと盛り上げる必要があると感じました。そして最も精力的に取り組んだのが「宮原坑アートプロジェクト」です。これは宮原炭坑の工事に関わる方々から声をかけていただき、私たちが企画・立案・実施したプロジェクトです。企画の段階で、かなりつまづきもしましたが、世界遺産に関わる様々な方々からお力添えをいただき、何とか進めることができました。その結果たどり着いたのが、「絵顔プロジェクト」です。大牟田の木であるクヌギをモチーフとし、木の成長を描くというコンセプトになっています。木の葉には、地域の小学生から高齢者にまで及ぶ方々に、大牟田に対する願いを書いてもらい、そのメッセージカードを貼りました。そのほか、この木のお披露目時には、参加者に手形アートにも協力してもらいました。昼間は学校や仕事があるため、夜間集まり、工事現場や事務所をお借りして作業にあたりました。仲間と協力して作業や課題を乗り越えた、貴重な体験でした。最終的に、幹のみだったクヌギの木は、地域の方々の願いやイベント参加者の手形で、たくさんの方々の思いが詰まった、世界に1つのアートになりました。この試みを通して、地域の方々と、メンバーとの協働の楽しさ、自分たちがこの大牟田の地に必要とされている喜び、そして地域の方々の期待に応えられた達成感を得ることができました。ストックホルム日本人補習校との交流についてもご紹介します。時差が7時

間程度あるため、市内の小学校とは交流が難しいということで、私たちが代わりに大牟田の街を紹介したり、お互いの SDGs に関する取組を紹介したりして交流しました。アプローチは違っても共に SDGs 達成に取り組んでいるということに刺激をもらえ、有意義な交流会でした。

これまでの取組を通して、達成感や、地域の方々とのつながりを強く感じることができましたが、一方で、会議の主旨が迷走した、不定期開催の会議により目的意識が低下した、などの反省点も出てきました。これを受けて私たちは、意識向上のためにチーム名を考案し、「With」と名付けました。チームメンバー、地域の方々、プロジェクト参加者と「ともに」行動するということが由来です。今後も若さという武器と、SDGs、ESD で学んだことを活かして、大牟田の未来を創るために活動を頑張っていきたいと思います。

■ 振り返り

RCE 大牟田 ユースチームの事例紹介を受け、参加者同士の対話の場が持たれました。以下、話し合われた主な内容です。

- ▶ 子どもたちに響くのは、様々な立場の方々からの感謝の言葉。これが何より自学自習のサイクルを回す動機を強化すると感じた。相互援助が喜びや生きがいにつながり、重要な支援に結びついていくと感じた。
- ▶ 若者が集える「居場所」をつくるなど、若者が協働する環境をつくるのが大切であると感じた。
- ▶ 学校が地域活性化に対していかに大きな影響力を発揮できる存在かということを再認識している。理想的には、地域住民、学校関係者、行政などが連携、共創できると良いのではないかと思う。
- ▶ 個々で活動を行うだけでなく、何らかの形で外部とつながることの必要性を感じた。
- ▶ 児童・生徒主導で取り組むようになっていったというお話があったように、自分たちで取り組みながらつながりを広げていくことが重要であると感じた。



[オンライン意見交換会の様子]

※次回の詳細につきましては、決定次第、[ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)内「最新情報」、[ユネスコスクール公式 Facebook](#) 等でお知らせいたします。ぜひご参加ください！